

いごいのみぎわ
天路歷程 ジョン・パニヤン

第51話

2022年11月6日～11月12日 各家庭でのディボーション用テキスト

有望者 そうしました。すると、それは主イエスで、いと高き者の右手にいます方であると言うのです。また次のようにして彼から義とせられればならぬ、すなわち、彼が肉体をもってこの世にいました時、みずからなされたこと、また木にかけられた時苦しまれたことを信じることだと言うのです。【ヘブ10章、ロマ4章、コロ1章、1ペテ1章】私はさらに、その方の義が他の人を神のみ前に義とするというその力はどのようにしてあり得るかと尋ねました。すると、その方は大能の神であつて、そのなされたことも、死なれたことも、ご自身のためでなく、この私のためであり、もし彼を信じるならば、彼の行ないも、その功德も、私のものとせられるというのです。

基督者 それからどうしましたか。

有望者 私は自分が信じることに對して異議を申し立てました、彼が喜んで私を救おうとはしていないと考えたものですから。

基督者 そしたら信仰者は何と言いましたか。

有望者 彼の所に行って、見なさいと言いました。そこでそれは無礼というものだと言いますと、いや、そうではない、君は招待されているのだと言いました。【マタ11:28】それからイエスご自身が書かれた書物を一部私にくれて、もっと遠慮せずに行くようにと励ましてくれました。またその書物については一点一画も天地より確かだと言いました。【マタ24:35】そこで私は自分が行ったら何をなすべきかと尋ねますと、ひざまずいて、全心全霊をもって、父なる神がイエスを自分に啓示なさることを願わねばならぬと言いました。【詩95:6、ダニ6:10、エレ29:12-13】それからさらに、どういうふうにして神に祈願をすべきでしょうかと尋ねると、彼は言いました、行きなさい、そうすれば神を恵みのみ座に見出すであろう、彼はそこに年中坐っていて、来る人々に許しを与えられる、と。【出25:22、レビ16:9、民7:8-9、ヘブ4:16】私はまた行ったとき何と言ったらよいか分かりませんと言いますと、彼はこんなふうと言いなさいと言いました、神よ、罪びとなる私を憐れみ、イエス・キリストを知りかつ信じる者として下さい。もしキリストの義がなければ、またその義を信じる信仰が私になれば、私はまったく見放された者であることが分かりました。主よ、あなたが憐れみ深き神であり、み子イエス・キリストをば世の救い主と定められたことを私は聞きました。その上、彼をば私のような罪びとにも（本当に私は罪びとです）、喜んで与えられると聞きました。それ故、主よ、この機会をとらえてみ子イエス・キリストによって私の魂を救い、あなたの恵みをいや増して下さい、アーメン。

基督者 それで命ぜられたとおりにさいましたか。

有望者 そうです繰り返し、繰り返しいたしました。

基督者 父なる神はみ子をあなたにおあらわしになりましたか。

有望者 いや、最初も、二度目も、三度目も、四度目も、五度目も、いや六度目もまただめでした。

基督者 それでどうしました。

有望者 どうするものにも、私にはどうしてよいか分かりませんでした。

基督者 お祈りをやめようという考えは起こりませんでしたか。

有望者 ええ、百度の二倍も。

基督者 それでもおやめにならなかつたのはどういうわけですか。

有望者 私は自分の聞いたことは本当であると信じていました。すなわち、このキリストの義がなければ全世界も自分を救い得ないということです。それ故、もし祈りをやめるならば私は死ぬであろう、私は恵みのみ座で死ぬほかない、と自分で考えました。それと共に心に浮かんだことは、「もしおそれれば待っておれ。それは必ず臨む。滞りはしない」【**ハバ2:3**】でした。そこで父なる神がみ子を示されるときまで祈りました。

基督者 どういうふうには彼は現わされましたか。

有望者 彼を肉の目でなく、心の目を見たのです。【**エペ1:18-19**】その次第はこうです。ある日のこと、私は非常にもの悲しくなりました。今までの何時よりも悲しかったと思います。そしてこの悲しさは、自分の罪が大きく汚れていることが今さらのように分かったからです。そして私はそのとき地獄とわが魂のとしえの滅びのほか何も期待しませんでした。突然（私にはそう思われたのです）、イエス・キリストが天から私を見下ろして、「主イエスを信じなさい。そうしたらあなたは救われます」【**使16:30-31**】と言われるのを見ました。

しかし私は、主よ、私は大いなる、実に大いなる罪びとですと答えました。するとそれに対して、「わたしの恵みはあなたに対して十分である」【**Ⅱコリ12:9**】と言われました。そこで私は言いました、ですが主よ、信じるとはどういうことですか。すると「わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない」【**ヨハ6:35**】というみ言から、信じるとはまったく一つの事であって、来る者、すなわち心と愛情とでキリストの救いを求めて駆けつけた者は実にキリストを信じるものであるということが分かりました。そのとき私は目に涙を浮かべてなおも尋ねました、しかし主よ、私のような大きな罪人でも本当にあなたに受け入れられて救われるのでしょうか。すると彼が言われるのを聞きました。「わたしに来る者を決して拒みはしない」。【**ヨハ6:37**】そこで私は申しました、しかし主よ、私があなたの所に参ります時、あなたに対する私の信仰が正しくあるようにするには、どういうふうにあなたを考えるべきでしょうか。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい